

# 社会民衆新聞・社会大衆新聞 復刻版

関連図書  
反知性主義への抵抗！

# 社会民衆新聞

1927年—1940年

復刻版

全5巻

日本憲政史初の第三極！  
1930年代、「反ファッショ」の期待を  
背負いながら、挙国一致へと進んだ政党の歩み



1932年に全国労農大衆党と社会民衆党が合同し、結成された社会大衆党。「反ファッショ」の期待から、1937年の総選挙にて37議席獲得、日本憲政史上初の第三極となつた。しかしその後、日中戦争支持、挙国一致体制へと突き進んだ同党は大政翼賛会へと合流していった。

「革新」の名のもとに同党が背負つた大きな期待とは何だったのか。既存政党への不信感がつくる現代に何を語るのか。昭和戦前期における社会・政治を考える必須史料を、その前身である社会民衆党の機関紙とあわせてついに復刻！

●解題 福家崇洋・立本紘之・杉本弘幸

※今回の解題は「無産政党資料研究会」の成果に基づく

●体裁 A3判・上製・総約1,000頁

●揃定価 本体250,000円+税

●推薦 有馬学・加藤陽子

2019年12月刊行開始

第1回配本 2019年12月刊行 ISBN978-4-86691-213-4 本体揃価格100,000円+税	第1巻 社会民衆新聞 1927年～1929年	A3判 210頁
	第2巻 社会民衆新聞 1929年～1932年	A3判 218頁
第2回配本 2020年12月刊行 ISBN978-4-86691-217-2 本体揃価格150,000円+税	第3巻 社会大衆新聞 1932年～1937年	A3判 194頁
	第4巻 社会大衆新聞 1937年～1939年	A3判 192頁
	第5巻 社会大衆新聞 1939年～1940年 巻末に解題・総目次・索引を付す	A3判 192頁

※配本ごとの販売となります。巻ごとの分売は出来ません。

原紙探索にご協力ください。

『社会民衆新聞』『社会大衆新聞』の下記の号を探索中です。

お心当たりの方は、下記三人社までご連絡いただければ幸いです。

『社会民衆新聞』21号(昭和2年)、8号(昭和4年)、35号(昭和7年)

『社会大衆新聞』48, 51号(昭和8年)、73, 75号(昭和10年)、81, 82号(昭和11年)、87-91, 97, 99, 104, 108, 110, 112, 113, 116, 117号(昭和12年)、127, 128号(昭和13年)、150号(昭和15年)

- 体裁 A3判・上製・全5巻・総約1,000頁
- 揃定価 本体250,000円+税
- 解題 福家崇洋(京都大学人文科学研究所准教授)
- 立本紘之(法政大学大原社会問題研究所研究員)
- 杉本弘幸(京都府立京都学・歴彩館研究員)
- 有馬学(福岡市博物館館長)
- 原本提供 法政大学大原社会問題研究所・名古屋大学国際経済政策研究センター・個人所蔵

『大原社会問題研究所雑誌』2020年5月号

## 文化運動年表

(明治・大正編) 全1巻  
(昭和・戦前編) 全1巻

- 推薦 石牟礼道子・黒古一夫・紅野謙介・澤地久枝・成田龍一・長谷川啓・山泉進
- 体裁 / A5判・上製・各巻平均650頁
- 各巻定価18,000円+税
- 明治・大正編>2015年12月刊  
(昭和・戦前編)>2016年12月刊

現代の画家一般は全て漫画家でなくてはならない

柳瀬正夢全集刊行委員会編

## 柳瀬正夢全集

全4巻+別巻1

- 推薦 井出孫六・浦西和彦・及部克人
- 体裁 / A5判・上製・各巻平均650頁
- 揃定価87,000円+税
- 2013年12月～2019年7月

## 戦前期中国関係雑誌 細目集覽

(収録誌一覧) 北支那／上海文学／大陸／中日文化／東亜／燕京文学／黄鳥／大陸往来／長江文学／解題／竹松良明(刊行会代表) 大橋毅彦・木田隆文・秦剛・趙夢雲・戸塚麻子・和田崇

- 体裁 / A5判・上製・総464頁
- 定価18,000円+税
- 2018年12月刊

## 三人社

〒606-8316

京都市左京区吉田二本松町4 白堀荘

電話 075-762-0368

FAX 075-762-0369

<http://3ninsha.com/>

●表示はすべて税別

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。

## 「社会党的なもの」の歴史的起源を検討するために

有馬 学（福岡市博物館館長）

草創期の無産政党から社会大衆党、戦後の社会党という系譜を通して、そこに一貫して流れているものがあるのか、あるとすればそれは何なのか。不思議なことに、その最大公約数を「社会民主主義」と言い切ってしまうと、歴史的実態とずれてしまう。なぜなら、当の社会党自身が社会民主主義を明示的に掲げることに否定的だったからである。明示的にそれを掲げようとなり、そちらの方向に軌道修正しようとした西尾末広、蠟山政道、江田三郎らの試みはすべて挫折している。

所得の再分配と社会政策の実現を、議会を通して達成する（少なくともそれを否定しない）、そのこと自体は共通の目標であるのに、それを公然と社会民主主義と呼ぶ事への忌避感が常に内包されている。それが、草創期無産政党から社会大衆党、日本社会党を通じて認められる特徴である。この奇妙な力学が働く場を、とりあえず「社会党的なもの」と呼んでみる。

戦後の日本社会は、たとえばアメリカ社会に比べれば、はるかに社会民主主義的な政策を実現してきた社会だと言える。しかしそれは、社会党的な政策を自民党長期政権が巧妙に取り入れることで実現されたものである。社会民主党はガラスの天井が存在する中で、社会民主主義を正面から議論する行為にフタをし続けた。それが何故だったのかについて考えることが、「社会党的なもの」とは何かという問い合わせに答える道である。

「社会党的なもの」の歴史的起源を追求することは、社会大衆党にいたる戦前・戦中の無産政党の歴史を、社会運動史という狭い枠組みから近代日本の政治社会史に解き放つことで達成されると思う。現状で望みうる最大限の原紙収集にもとづく『社会民衆新聞』『社会大衆新聞』の復刻は、そのための強力な情報源となるであろう。この上は、そろえるのが大変だろうが、日本労農党から全国労農大衆党にいたる中間派機関紙の復刻も、是非期待したいところである。

## 推薦のことば

加藤陽子（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

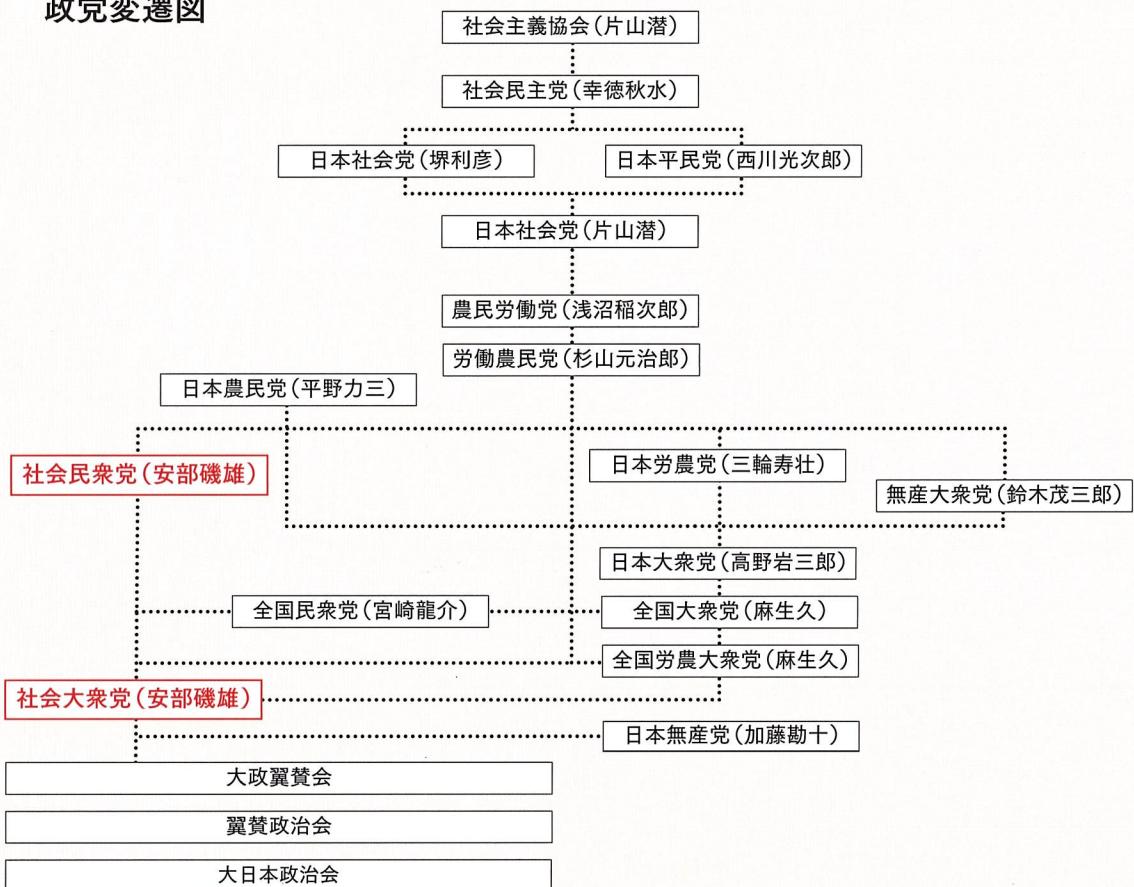


1936年の総選挙で大勝して狂喜する社会大衆党本部〔前列右から〕浅沼稲次郎、河野密、安部磯雄、麻生久

今回復刻される『社会民衆新聞』と『社会大衆新聞』は、社会民衆党と社会大衆党の機関紙だった。軍部が力を持ち始めた昭和戦前期にあって、右は既成政党、左は共産党系フロント諸組織の間に立っていたのが合法無産政党・社会民衆党に他ならない。男子普通選挙制と慣習的二大政党制がスタートした時期の政党内閣は、「勤労大衆」の意思を集約できるような場などではなかった。社会民衆党は自らを「勤労大衆の代表的公党」と位置づけ（『社会民衆新聞』一九二七年一月一〇日付社説）、選挙法改正、完全なる労働組合法制定、完全なる小作法制定、応召家族の生活保護等を選挙スローガンに掲げた（同前、二七年一月二〇日付）。「大衆」の要求を議会に集約しうる政党が誕生したことは、軍部や国家改造論者にとって注視に値する事件だったのではない。同党の詳細な動向を追える本資料集は、当該期の国家と社会に关心を持つ全ての人有益であり、一読を強く薦めたい。

一九二六（大正十五）年一二月五日、大正から昭和への改元直前に結党された社会民衆党は、二大既成政党が拮抗する議会内でキヤスティング・ボートを握れる存在だった。党結成の産婆役であった吉野作造は、二八年の衆議院選挙の際、吉野の故郷・宮城一区から立候補した女婿・赤松克磨のため応援演説を引き受けるが、これは吉野が現実の運動の世界に足を踏み入れる画期ともなった。だが、三一年から翌年にかけて、対外的には謀略に起因する戦争（満州事変、上海事変）、対内的にはクーデター計画（三月事件、十月事件、血盟団事件、五一五事件）が連続的に生起したことと、「大衆」に基盤を置く社会民衆党も変容を迫られた。三一年一二月、同党は満蒙問題対策を決議するも、それは「満蒙戦争を通じて国内資本主義の打倒」「満蒙の権益を無産階級に奪還せよ」との大見出しで描写される類いのものだった（『社会民衆新聞』三一年一二月二十五日付）。三二年七月二十四日、党は労農大衆党と合同を遂げ、ここに社会大衆党が結党された。結党直後の『社会大衆新聞』三二年八月一五日付が、労働者・農民・勤労大衆の要求を集約すべく、地方支部代表による「大衆議会」を東京で開催すると報じていた点など興味深かつた。活性化した同党地方支部の動向は、四〇年一〇月、大政翼賛会結成をめぐる政治過程に深く関係を持つてゆくだろう。機関紙を通読することで近代史上の重要な論点が見えてくる。

## 政党変遷図



関連年表（太字は社会民衆・大衆党関係）

1940年7月	1939年9月	1938年4月	1937年4月	1936年2月	1935年5月	1935年3月	1934年10月	1933年9月	1933年1月	1932年7月	1932年5月	1931年9月	1930年7月	1929年10月	1928年6月	1928年2月	1927年3月	1926年10月	1926年3月	
社会大衆党解散。10月大政翼賛会へ合流	第2次世界大戦勃発	国家総動員法公布	8月、純然たる小作農からなる満州視察団を派遣	東方会との合同問題発生	第20回総選挙。社会大衆党37議席と躍進。憲政史上初の第三党となる	第19回総選挙。社会大衆党は18議席獲得	2・26事件	盧溝橋事件、日中戦争開始。12月皇軍将士に対する感謝決議	東京市電、従業員1万人解雇。社会大衆党は東京市長の辞職を要求	ヒトラー内閣成立	全国労農大衆党結成	米株式市場大暴落 世界恐慌	金融恐慌（片岡藏相、渡辺銀行破綻失言）	立憲民政党結成	「赤旗」創刊、最初の普通選挙による総選挙3・15事件。4月労働農民党解散が命じられる	張作霖爆殺事件	日本大衆党結成	労働農民党結成	最初の普通選挙により浜松市会議員選挙実施	日本農民党、日本労農党結成
社会大衆党解散。10月大政翼賛会へ合流	第2次世界大戦勃発	国家総動員法公布	8月、純然たる小作農からなる満州視察団を派遣	東方会との合同問題発生	第20回総選挙。社会大衆党37議席と躍進。憲政史上初の第三党となる	第19回総選挙。社会大衆党は18議席獲得	2・26事件	盧溝橋事件、日中戦争開始。12月皇軍将士に対する感謝決議	東京市電、従業員1万人解雇。社会大衆党は東京市長の辞職を要求	ヒトラー内閣成立	全国労農大衆党結成	米株式市場大暴落 世界恐慌	金融恐慌（片岡藏相、渡辺銀行破綻失言）	立憲民政党結成	「赤旗」創刊、最初の普通選挙による総選挙3・15事件。4月労働農民党解散が命じられる	張作霖爆殺事件	日本大衆党結成	労働農民党結成	最初の普通選挙により浜松市会議員選挙実施	日本農民党、日本労農党結成
社会大衆党解散。10月大政翼賛会へ合流	第2次世界大戦勃発	国家総動員法公布	8月、純然たる小作農からなる満州視察団を派遣	東方会との合同問題発生	第20回総選挙。社会大衆党37議席と躍進。憲政史上初の第三党となる	第19回総選挙。社会大衆党は18議席獲得	2・26事件	盧溝橋事件、日中戦争開始。12月皇軍将士に対する感謝決議	東京市電、従業員1万人解雇。社会大衆党は東京市長の辞職を要求	ヒトラー内閣成立	全国労農大衆党結成	米株式市場大暴落 世界恐慌	金融恐慌（片岡藏相、渡辺銀行破綻失言）	立憲民政党結成	「赤旗」創刊、最初の普通選挙による総選挙3・15事件。4月労働農民党解散が命じられる	張作霖爆殺事件	日本大衆党結成	労働農民党結成	最初の普通選挙により浜松市会議員選挙実施	日本農民党、日本労農党結成